

登録コード:MH635100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	人間発達学【理作20M以降】 Human development learning		
担当教員	西澤 公美 岩波 潤・岡野 怜己		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻・作業療法学専攻/1年 後期 金曜・1 時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 1 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	運動機能，認知機能，言語機能，情緒・社会性の各領域の発達過程を説明できる． 各発達時期に応じた発達課題を説明できる．	
	MH25カリ・保健・理学，MH25カリ・保健・作業，MH23カリ・保健・理学，MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し，さまざまな状況で活用できる。	胎生期から老年期までの心身機能の発達過程と，各時期における発達課題を理解する．	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して，地域・国際的な視点から，科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と，課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	受精，出生から死に至るまでの人の一生涯に対する理解を深め，人に対する興味・関心を高める．	
授業で学べる「テーマ」	その他		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	胎生期から老年期までの発達について，身体発育，運動発達，認知発達，言語発達，情緒・社会性の発達などの各発達領域における発達過程と，それぞれの発達時期における発達課題を学習する． 本授業は，2年次後期の「小児科学」，3年次に学ぶ「小児系の理学療法」や，4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります． 本授業は，担当教員の臨床における小児理学療法および作業療法の実務経験を活かして講義を行う．		
授業計画	第 1 回（10月 2日） 人間発達総論（発達区分，発達の概念，理論，原則）（西澤） 第 2 回（10月 9日） 中枢神経系の成熟と運動発達 胎芽・胎児期の発達 （岡野） 第 3 回（10月16日） 中枢神経系の成熟と運動発達 原始反射 （西澤） 第 4 回（10月23日） 中枢神経系の成熟と運動発達 姿勢反応，小テスト （西澤） 第 5 回（10月30日） 粗大運動発達（ 0 ～ 4 ヶ月；グループワーク） （西澤） 第 6 回（11月 6日） 粗大運動発達（ 5 ～ 8 ヶ月；グループワーク） （西澤） 第 7 回（11月20日） 粗大運動発達（ 9 ～12 ヶ月；グループワーク） （西澤） 第 8 回（11月27日） 認知機能の発達 （岩波） 第 9 回（12月 4日） 心理社会的機能の発達 （岩波） 第10回（12月11日） 胎生期の特徴 （岩波） 第11回（12月18日） 小テスト，乳児期の特徴 （岩波） 第12回（12月25日） 幼児期の特徴 （岩波） 第13回（ 1月 8日） 学齢期の特徴 （岩波） 第14回（ 1月15日） 青年期の特徴 （岩波） 第15回（ 1月22日） 成人期・老年期の特徴,授業アンケートの実施 （岩波） 第16回（ 1月29日） 期末試験 （西澤）		
授業の進め方	学生が1講義あたり2時間程度の自己学習を行っていることを前提に授業を進める． 授業は講義およびグループワーク（第5回～第7回）の形式にて，パワーポイントのスライド，配布資料に基づいて進める．		
テキスト，教材，参考書	教科書 加藤寿宏，松島佳苗：標準理学療法学・作業療法学[専門基礎分野] 人間発達学 第3版(医学書院) 参考書 福田恵美子：コメディカルのための専門基礎分野テキスト，人間発達学，中外医学社 前川喜平：理学療法士・作業療法士のための小児の反射と発達の診かた，新興医学出版社 高橋孝文：乳児の発達，写真で見る 0 歳児，医歯薬出版 真野行生：運動発達の反射，反射検査の手技と評価，医歯薬出版		
成績評価の方法	グループ課題，小テスト，事後課題（岩波担当分），期末試験に基づいて総括的に成績を評価する． 総括的評価の配分は，岩波分は期末試験の筆記テスト60%+小テスト20%+事後課題20%，岡野・西澤分は併せて期末試験の筆記テスト80%+グループ課題10%+小テスト10%の配分比率で分を合計したものを最終評点とし，全教員分の最終評点の60%以上の得点を合格とする．小テストは10月23日（西澤）と12月18日（岩波）に，グループ課題は10月30日，11月6日，11月20日に実施する． 期末試験では，胎児から老年期において獲得される運動や知的の発達についての理解度を確認する．		

成績評価の基準	最終評点による成績評価の判定基準は、下記の通りとする。 90-100点 秀 80-89 点 優 70-79 点 良 60-69 点 可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定する。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくるべき内容について説明を行う。 予習時に参照すべき教科書等のページ数については、毎回の授業の終わりに説明する。 また、1回目の授業前に教科書の第1部を事前に読んでくること。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行うので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように準備して授業に臨むこと。 復習時に参照すべき教科書等のページ数については、毎回の授業の終わりに説明する。 第8-15回（岩波担当分）は授業後にe-ALPSへ提示される課題を実施すること。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間15時間（1時間×15回）＝ 45時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、研究室在室の場合は随時受け付けます。 質問への対応：西澤 公美 hitnishi@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎4階 西澤公美研究室 岩波 潤 iwanami@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 岩波潤研究室 岡野 怜己 satoka@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎4階 助教・助手研究室